

# 1年を通して安全で安心な道路交通環境の実現に向けた交通安全対策等の推進

戦略的目標『地域力ある北の広域分散社会』・戦略的目標『アジアに輝く北の拠点』への対応

『地域力ある北の広域分散社会』では、「道内の各地域において、高品質農水産品を内外に供給する地域、東アジアへの玄関口として生産・物流の拠点など優れた特色ある地域資源を活かした地域づくりを進める」としており、高品質な食料供給地域や観光保全地域など、優れた特色のある資源を有する地域の生活を支える安全な交通アクセスの改善（冬期も含めた信頼性確保）を図るとともに、「都市機能の維持と交流・連携の強化を進め、人口減少・少子高齢化に対応した地域社会モデルを構築する」としており、都市内における1年を通じた安全な歩行空間等の確保を図る。

また、『アジアに輝く北の拠点』では、北海道の自然環境や気候風土がアジアの中でも特徴的で、魅力的な観光資源であるとし、「これらを活用して、国内はもとより、東アジア地域を始め海外との観光交流の拡大を図ることが重要である。」としており、冬期バリアフリーをはじめとした雪みち対策を推進し、外国人を含む冬期来道者が安心して利用できる冬期道路交通環境を創出することで観光客の受入環境の向上を図る。

「戦略的取組」  
を取り巻く  
現状・課題

- ・広域分散型地域で自動車依存の高い北海道では、交流連携の強化に向け自動車交通の安全性の確保が不可欠であるが、依然として交通事故発生件数が高い水準で推移しており、未だ年間200人を越える尊い命が交通事故の犠牲
- ・国道における交通死亡事故の主要因は「正面衝突」「人対車両」「車両単独」で約8割を占めるとともに、歩行者の死者数の約7割が65歳以上の高齢者であること、道内死傷事故の約9割は市街地で発生し、うち交差点が約6割を占めていことなどから、身近な道路における人優先の安全・安心な歩行空間の確保が必要
- ・正面衝突対策として、ランブルストリップスの整備により一定の効果が発現

- ・冬期道路交通環境の改善に向けた対策は、ハード・ソフト・官民連携・維持管理の観点で総合的に取り組むことが必要
- ・中でもツルツル路面の対策は地域の要望も高く、観光客を含む多くの人々が転倒により救急搬送されるなど重要な課題
- ・冬期VSP( )制度を活用した雪みち管理は、地域と協働した取り組みとして有効な手法であり、継続的な活動と取組拡大の検討が必要



具体的  
戦略

効率的で効果的な交通事故対策の推進

冬期バリアフリー環境の創出

検討項目

- ・事故危険個所における集中的な事故対策
- ・事故ゼロプラン

- ・「あんしん歩行エリア」における歩行者・自転車を優先するゾーンの形成等

- ・情報提供ツールの多様化
- ・情報コンテンツの充実
- ・多言語対応

- ・冬期VSP( )の啓発
- ・自治体との更なる連携
- ・観光地における活動

施策群

幹線道路における交通事故対策

生活道路における交通事故対策

効果的な雪みち情報の提供

官民連携による冬期道路管理

VSP: Volunteer Support Programの略。ボランティア・サポート・プログラムとは、国が直接管理している道路（直轄国道）を対象として、実施されている道路の美化・清掃プログラム。

施策群の連携機関：北海道、市町村、北海道観光振興機構、（独）土木研究所・寒地土木研究所 等  
日本再興戦略との対応：安全・便利で経済的な次世代インフラの 等